

ひびき

令和8年5月29日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
4年 学年便り 6月号

「どのクラスも同じ思いでがんばっている仲間だ！」

運動会では、温かな応援や励ましのお言葉をありがとうございました。運動会練習が始まる前に、各クラスでは、実行委員を中心に運動会に向けてスローガンの話し合いや、「台風の日」の練習計画を考えました。スローガン決めでは、「みんなで協力すれば、楽しい運動会にできるんじゃないかな。」「練習から本気になることが大事だと思うよ。」「勝っても負けても、笑顔で運動会を終えたいよね。」とひびきの子たちは、運動会に対する思いを高めていました。

応援練習が始まると、応援にも熱が入っていきました。朝の短い時間での応援練習を充実させるためにはどうしたらよいのか考え、登校したらすぐに準備をし始める子ども、教えに来てくれた6年生に負けない気迫で声を出す子ども、休み時間に自主的にポンポンを持って集まり、応援を始める子どもも見られました。

また、学年種目の「台風の日」の練習では、竹を持ってコーンを回ることや息を合わせてジャンプするといった、競技特有の難しさに直面しました。「もっとしっかり跳んでよ!」「運んでくる竹が高いから、跳べないんだよ!」と各々が困り感を表出し、時にはぶつかることもありました。練習でタイムを毎回短縮できるわけではなく、ミスが連鎖し、さらに時間がかかってしまうこともありました。子どもたちは、練習しても思い通りに成果が出ない状況に歯がゆさを感じたことでしょう。しかし、どのクラスもそこでめげずに、現状を打開するための意見を出し合いました。「横の人と並びを揃えて、跳ぶタイミングを合わせよう。」「内側の方はコーンを回るときにもっと中心に向かって引っぱった方がいいよ!」と練習で気付いたことを伝え合いました。さらに、クラスの仲間だけでなく、ひびきの仲間全体への思いを広げている子どもも見られました。道徳の授業では、運動会に向けて取り組んでいる自分たちのことを振り返りながら、「どのクラスも同じ思いで頑張っている仲間だ!」「お互い高め合っていきたい。」という思いをもち、ひびき3クラス全体で一生懸命練習に取り組みました。

そして、迎えた本番です。保護者の皆様には、どのように目に映ったでしょうか。各色での気合いを込めた応援からは、運動会を盛り上げようという気持ちが溢れていました。また、「台風の日」では友達を励まし合う様子や、息を合わせた掛け声で竹を跳ぶ様子、これまで本気で取り組んできたことが感じられたと思います。競技の結果を受け、「最後の練習から20秒以上も速くなって、みんなすごいよ!」とこれまでの過程を価値付けている子どももいれば、「やっぱり悔しい!」と言う子どももいます。「でも、みんなががんばってやったから満足しているよ。」と自分自身やクラスのみんなの練習を行ってきた過程に目を向ける子どもの姿が確かにありました。運動会に対する考え方や感じ方は、様々ではありますが、クラスの仲間と本気で打ち込んできた過程は、子どもたちの今後に必ずつながっていくと信じています。

